

高梁の 近代化遺産 12

羽山溪の手掘り隧道(成羽町羽山)

大分県本耶馬溪にある青の洞門は、越後生
まれの禅海和尚が30年の歳月をかけて一人で
鑿と槌をふるって掘りあげた延長342mの
隧道です。その完成は宝暦13(1763)年
であったといわれ、わが国最古の隧道とされ
ています。

わが国最初の山岳鉄道隧道は旧東海道線逢
坂山隧道です。明治13年に竣工した隧道工事
の陣頭指揮を取ったのは鉄道長官・井上勝の



羽山溪は、島木川が石灰岩を侵食して形づくった
約2kmに及ぶ景勝地。天龍ヶ淵や不動の滝、榎
龍洞などで知られています。

そして、延長664.8mに1年8カ月をか
けた隧道の大津方坑門には、太政大臣・三
条実美が「楽成頼功」と揮毫した扁額を飾
りました。

逢坂山隧道の工事に動員されたのは兵庫県
の生野銀山で働く鉱夫たち。彼らもまた、鑿
や鶴嘴で固い岩盤に挑んだのです。わが国に
珪藻土ダイナマイトが輸入されたのは明治11
年。隧道工事現場や鉱山でダイナマイトが使
用され始めるまで、先人たちは暗い坑内を手
で掘っていったのです。

大正5年当時、高梁から川上郡に入った県
道は、成羽で宇治経由吹屋に至る旧吹屋往来
と、現在の新見川上線に分岐しました。江戸
時代まで、川上郡の道路は急峻狭隘な渓谷
沿いに開かれ、人と牛馬が何とか行き交って
いました。これらの道を近代車両交通路に転
換することは容易なことではありませんでした。
大正8年12月3日木曜日付『山陽新報』
は、旧吹屋往来が馬車通行を滞らせるほど急
路であることから県道指定を外される危機に
あり、数万円の巨費をもって改修途上である
と報じています。

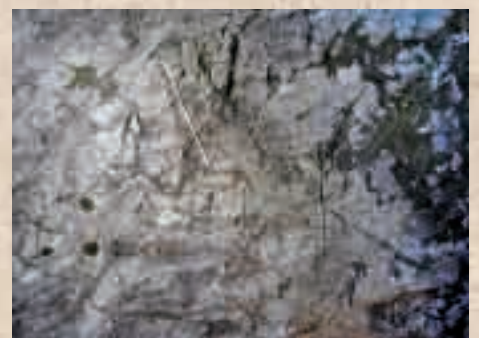
現在の県道宇治下原線、旧吹屋往来の島木
川を見下ろす石灰岩地帯には、延長73mの羽
山第一隧道と第二隧道延長32mがあります。

『成羽町史 通史編(成羽町、平成8年)』に
よると、尾根沿いで急坂の多い吹屋往来を羽
山溪谷沿いに付け替える工事は大正3年に着
工。度重なる難工事に妨げられ、15年後の昭

和4年に
ようやく
開通して
います。

最大の難
工事個所
はふたつ
の隧道。

『岡山県
の近代化
遺産(岡



隧道坑内の鑿や鶴嘴の跡。人海戦術による工
事であった痕跡は至るところにあります。高
所の工事では人を吊るして削っていったので
しょう。

山県、平成17年)で上田賢一氏は、人を上
から吊るし鑿でくっつけていった、という佐藤伝
三氏の回顧を載せています。人海戦術で掘削
された隧道の中には随所に鑿や槌の跡があり
ます。その痕跡は青の洞門以上に鮮明です。

吉岡銅山に画期的な近代化をもたらせた三
菱商會は、いち早く西洋の掘削技術とダイナ
マイトを使用しました。明治末期に最盛期を
迎えた銅山に先進技術が応用されながら、大
正中期に掘られた羽山隧道は原始的な手掘り
に頼ったこととなります。その工事時期は小
泉銅山の操業期と重なります。隧道工事の詳
細はわかりませんが、逢坂山隧道のように、
銅山からの鉱夫が派遣されたことがあったで
しょうか。興味がわきます。

(文・吉備国際大学社会学部ビジネスコミュ
ニケーション学科准教授・小西伸彦さん)

(注)羽山トンネルへ向かう県道宇治下原線は、当分
の間、通行止めとなっています。